

鈴鹿の風

すずかのかぜ

VOL.
57

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院広報誌

街の本屋さん

院長 久留 聡



新任者の紹介
療育指導室からのお知らせ
鈴鹿病院Instagramを開設しました
地域連携室だより
職員コーナー
名誉院長の部屋



街の本屋さん

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院 くる 久留 さとし 聡

街の本屋さんがどんどん無くなって本好き、本屋好きの人間が心を痛めています。若者の活字離れの影響が大きいのでしょうが、読書好きの中にも、「図書館活用派」、「電子書籍派」、「配送サービス利用派」などがあるので「本屋大好き派」が減っているのかもしれませんが。確かに読みたい本をアマゾンで頼むと、早ければ翌日には手に入るのですごく便利な時代になりました。それでも本屋さんに通い続けるのには理由があります。おそらく「本屋好き派」は、あの独特な空間が好きなのかもしれません。なんとなく文化の香が漂う憩いの場で、素敵な本に出会えるワクワクした思いを感じたい。また、旅先で何気なく立ち寄った本屋さんで、偶々購入した本が意外に面白くて夢中になったという経験を誰しも一度はしているではないでしょうか？他にも出会いの場、癒しの空間、極上の暇つぶしなど様々な役割を担ってきた街の本屋さんの縮小、撤退は由々しき事態であると思っています。

本を選ぶ時に文学賞を目安にすること

も多いと思いますが、その中でも、「本屋大賞」はハズレが少ないような気がします。この賞は全国の書店員さんによる投票によって決まるそうです。やはり目利きの店員さん選ぶと本当に面白くて優れた作品がランキングされやすくなります。昨年のNHK大河ドラマ「べらぼう」の主人公は薦屋重三郎でした。吉原出身の本屋の主人ですが、時の権力に抗いながら、江戸の庶民文化やエンターテインメントを支えようとする気概を持った人物を横浜流星が好演していました。彼の場合本屋の経営者であると同時にプロデューサーでもあり、これと思ったアーティストを強力に推して支援します。令和の時代にこのような傑物が出てくれば本屋文化の再興も夢ではないでしょう。最近でも書店ごとにいろんな工夫がされていて、フェアの展開や、書店員お薦めのポップが立っていることもあります。仙台の学会に行った時に立ち寄った書店ではちょうど伊坂幸太郎フェアが開催中でした。三重県の書店では、本居宣長フェアや



松尾芭蕉フェア、江戸川乱歩フェアなどは開催されているのでしょうか？ちょっとレジェンド過ぎるので、現役の作家の方が良いのかもしれませんが。本との出会いは、クチコミ、SNS、新聞の書評欄や広告、映像化を機に原作を読んでも、などさまざまですが、書店の生き残りのためにはもっと情報発信機能を高めることも必要だと感じます。

3年前に、自分が編集した「筋疾患の骨格筋画像アトラス」(医学書院)が出版されました。専門書なので中小の書店では販売されていませんが、東京の丸善の書棚に並んでいるのを見たときは感無量でした。ただ脳神経内科向けの本なのに、なぜか整形外科のコーナーに置かれていたのは残念でした。次の本を出せるように頑張りたいと思います。

新任者の紹介

事務部長 宮森 勇仁 みやもり はやと

富山県の北陸病院から赴任して参りました宮森と申します。今回、初めての三重県勤務となりますが、鈴鹿市にはモータースポーツ観戦で何度か訪れたことがあり、海にも山にも近く自然豊かな土地とのイメージです。「国民に奉仕する立場から、政策医療である、筋ジストロフィー・重症心身障害・神経難病の分野において、患者さん本位で質の高い専門医療を提供します。充実した医療と健全な経営を心掛け、常に意識改革を怠りません。」という鈴鹿病院の基本理念に基づき、自分にできることは何かを考えながら、各部門と協力し鈴鹿病院の発展に貢献できるよう努力して参りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

撮影透視主任 田中 宏弥 たなか ひろや

本年度から鈴鹿病院に赴任することになりました。趣味は映画鑑賞、サウナでとこのこと、ランニング、植物鑑賞です。これから一つずつ覚えていきますので皆さん色々と教えてください。よろしくお願いいたします。

主任管理栄養士 宮地 菜摘子 みやち なつこ

豊橋医療センターより赴任してまいりました。出身は愛知県で、三重での勤務は初めてとなります。患者様によりそった栄養管理ができるように努めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

地域医療連携係長 岡 道代 おか みちよ

このたび、三重病院から赴任してきました。就職以来勤務していた当院に、9年ぶりに戻ってまいりました。前任地においても同様に地域医療連携の業務に携わってまいりましたが、再びこの病院でその役割を担えることを、大変うれしく、また身の引き締まる思いであります。地域の医療機関や福祉・介護の皆さまとのつながりを大切にしながら、患者さんが安心して適切な医療を受けられる体制づくりに努めてまいります。これまでの経験を活かしつつ、当院と地域をつなぐ架け橋となれるよう、職員の皆さまと協力しながら取り組んでいきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

療育指導室長 桑原 啓吏 くわばら ひろし

この4月より、鈴鹿病院に着任いたしました療育指導室長の桑原と申します。鈴鹿病院には、以前にもいたことがございまして、しかしながら18年という間が空いておりますので、病院も様変わりしており、なんと浦島太郎さん状態でございます。皆さまのお力添えをいただきながら、ひとつずつ進めてまいりたいと思います。以前より入院されている患者様の元気そうなお姿を拝見すると、こちらも嬉しく、懐かしく、そして元気にさせていただけています。鈴鹿病院の皆さまと、患者様が日々楽しく過ごせるよう、がんばりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

副看護部長 新屋 君香 しんや きみか

名古屋医療センターより赴任してまいりました新屋と申します。出身は三重県で、名古屋医療センターで勤務する前は、三重中央看護学校で教員をしておりました。鈴鹿病院は実習でお世話になった病院でもあり懐かしく感じております。これからは、鈴鹿病院の一員として、入院生活を送る患者様やご家族がより安心して過ごせるよう環境を整えていきたいと思っています。また、看護の専門性を発揮して、患者様一人ひとりに最善の看護が提供できるよう、私自身の役割を精一杯努めてまいりたいと思っています。至らない点もあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

臨床検査技師長 宮岡 秀和 みやおか ひでかず

名古屋医療センターより赴任してまいりました宮岡と申します。三重県での勤務は三重中央医療センターに次いで2度目となります。出身は愛知県ですが、15年程前から三重県に住んでいますので第2の故郷だと思っています。4月から初めての臨床検査技師長としての勤務に身が引き締まる思いであります。微力ではございますが、当院ならびに検査科の発展に貢献できるよう努めてまいりますので、ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

看護師長 西2階病棟 中北 昌希 なかきた まさき

この度、4月1日より三重病院から異動となりました。中北 昌希(なかきた まさき)と申します。はじめての鈴鹿病院のため勝手がわからずご迷惑をおかけすることもあるかもわかりませんが、みなさまよろしくお願いいたします。

業務班長 佐々木 真 ささき まこと

この度、榊原病院より赴任してきました、佐々木真と申します。鈴鹿病院は初めての勤務となりますが、高校・大学も三重県であり、国立病院機構に入職してからも三重県の病院勤務が多く、三重県で働きたいと思っていますことから、鈴鹿病院勤務を嬉しく思っています。鈴鹿病院は医療と福祉の両輪で成り立っています。まず制度を理解し、業務班長ということで患者さんと接する機会は多くないと思いますが、病院が円滑に機能するよう微力ながら頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



脳神経内科
医師

早川 雄馬 はやかわ ゆうま

脳神経内科医として赴任いたしました。早川雄馬と申します。これまでの経験を生かし、患者さまに安心していただける医療を目指して日々努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

看護師
第1病棟

大井 里香 おおい りか

個別性を大切にし、患者さんに寄り添い、信頼される看護師を目指します。日々学ぶ姿勢を忘れず、一つ一つの経験を成長へとつなげていきたいです。ご指導よろしくお願いいたします。

看護師
東1階病棟

伊藤 みさと いたう みさと

初めてのことばかりで不慣れなところもありますが、患者さん一人ひとりに寄り添えるよう精一杯頑張ります。ご指導よろしくお願いいたします。

看護師
西1階病棟

鈴木 千裕 すずき ちひろ

4月1日付で東名古屋病院より異動してまいりました。患者さんと家族の気持ちに寄り添い、たくさん関わらせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

看護師
西2階病棟

重田 若果菜 しげた わかな

新しい環境で不安もありますが、笑顔を忘れず患者さんに合った個別性のある看護を提供できるように学んでいきたいです。精一杯頑張りますので、ご指導よろしくお願いいたします。

看護師
西2階病棟

高橋 果杏 たかはし かりん

分からないことが多く、至らない点ばかりですが、精一杯頑張ります。ご指導よろしくお願いいたします。

看護師
西1階病棟

青木 萌生 あおき めい

新しい環境で不安もありますが、患者様に寄り添い、個性に合った看護を提供できるよう日々努力していきます。精いっぱい頑張りますので、ご指導よろしくお願いいたします。

看護師
東2階病棟

伊藤 集 いたう つとい

以前に、別の病院で療養介助員として働いていた経験を活かし、頑張りたいです。

療養介助員
東2階病棟

伊藤 容美 いたう よしみ

新しい環境で不安もありますが、一日でも早く仕事に慣れ、一生懸命がんばりますのでよろしくお願いいたします。

看護師
第1病棟

東 茉那 ひがし まな

新しい環境で戸惑うことも多く、不安もありますが、一日でも早く成長できるよう頑張っていきたいです。ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、ご指導よろしくお願いいたします。

看護師
第1病棟

堀木 早苗 ほりき さなえ

分からないことや、至らないことが多く、ご迷惑をおかけすると思いますが、患者様に寄り添い、心のこもった看護ができるように頑張ります。よろしくお願いいたします。

児童指導員
西2階病棟

長瀧 舞 ながしま まい

社会人一年目で、不安な気持ちもありますが、患者さん1人ひとりと向き合い信頼関係を築けるように頑張ります。ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、一生懸命取り組んでいきますので、どうかよろしくお願いいたします。

新任者の紹介



療育指導室からの お知らせ

鈴鹿病院は重い障害のある方々が入院されています。入院というと「ずっとベッドの上で療養している」というイメージがあるかもしれませんが、しかし、鈴鹿病院では院外レクリエーション、院内レクリエーション、病棟合同で開催する療育活動など、さまざまなイベントを企画し、取り組んでいます。例えば、院外レクリエーションでは、イオンモール鈴鹿へお買い物に行ったり、フラワーパーク鈴鹿で花を愛でたりします。院内レクリエーションでは病院内をオリエンテーリングしたり、病棟合同で開催する療育活動では病棟対抗で運動会をしたり…などです。

今年度はそれらに加え、新たに3つの企画を検討しています。1つ目は、鈴鹿市内の大学の学生と患者さんが一緒に農作物をプランターで育てます。まずは、オクラや大豆をまき、夏の収穫に向けて取り組み始めます。2つ目は、中央病棟と外来等を結ぶ2F渡り廊下の窓を重症心身障害児（者）病棟の患者さんの制作作品で彩ります。3つ目は、筋ジストロフィー患者さんが羊毛フェルトのワークショップを外来の一室を使用して開催します。

鈴鹿病院の患者さんは障害があり、生活に不自由さを抱えてられる方もいます。「障害」というと「何もできない」というイメージがあるかもしれませんが、しかし、障害があっても“できる”こと、病院にいても社会とつながることができます。患者さんが“できる”ことを鈴鹿の風の紙面を利用して、定期的に皆さんへお伝えしたいと思います。今後の「鈴鹿の風」をお楽しみに！！

鈴鹿病院は、病院ですか…
こんなこともしていま～す♪

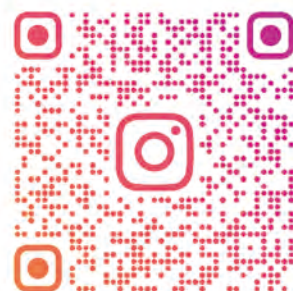


Follow Me



鈴鹿病院公式
Instagram
はじめました!!

たくさんのいいね♡
フォローお待ちしております♪



NHO_SUZUKA

地域医療連携室だより

面会者様送迎のご案内

面会者様対象

事前予約制で月～金の平日のみご利用、（祝日は不可）

ご利用可能人数は、一度に5名まで

予約は、医療福祉相談室へ

・電話 ・窓口 いずれかで承ります。

受付時間：平日9時～17時

時間	送迎ルート（途中乗車・下車はできません）
12:30～	【迎え】近鉄平田町駅→JR加佐登駅→鈴鹿病院正面玄関
15:00～	【送り】鈴鹿病院正面玄関→JR加佐登駅→近鉄平田町駅

鈴鹿病院 医療福祉相談室
TEL: 059-378-1321（代表） R8.5月

お問い合わせ

独立行政法人国立病院機構

鈴鹿病院

地域医療連携室

医療福祉相談室

電話：059-378-1321(代)

FAX：059-379-6670(直通)

お問い合わせ時間：平日8:30～17:15

職員 コーナー

小太郎（柴犬4歳）です。名前とは真逆に16kgと大きく成長しました。お尻をわしゃわしゃされることと、おんぶしてもらうことが大好きです。静岡と三重で離ればなれになってしまいましたが、久しぶりに会うと全身で喜びを表現してくれて、その姿に毎回癒されています。

看護部 S



名誉院長の部屋

コロナ禍一過、ネアンデルタールに会う

名誉院長 小長谷 正明

もう6年も経ってしまった。2020年1月1日、中国武漢で新しい感染症、新型コロナウイルス(COVID-19)が流行っているという報道があり、すぐに武漢は都市封鎖、いわゆるロックダウンで外部との接触が絶たれた。対岸の火事だと思っていた日本でも、2月には横浜に寄港したクルーズ船ダイヤモンド・プリンセスで患者が発生と集団隔離され、他人事ではなくなった。ヨーロッパやアメリカにも飛び火し、イタリアでは1月30日に一組の中国人夫婦の発症から始まって北イタリアを中心に広がり、3月末までには、死者数1万千人以上もの惨状となった。病院は対応しきれず、治療にあたる医師にも多数の死者が出た。国中がパニックに陥り、政府は非常事態を宣言し、いくつかの都市がロックダウンされた。

疫病の世界的流行、パンデミックの言葉が連日マスコミやネット空間に飛び交った。テレビでは、にわかに注目された感染症の専門家と称する人達が口角泡を飛ばしながら、大変ダア〜を連発した。すぐには理解不能な数式でもって、他人との接触を八割も減らせと提唱した教授先生もいた。八割おじさんだ。さほど患者が多くない段階でも、推奨された徹底的な感染防護策についていけない病院が続出し、ここでもマスコミは医療崩壊だと煽った。さらには、武漢に見習って日本でもロックダウンせよという政治家も出てきて、ふと、フランス人のノーベル賞作家アルベール・カミュの『ペスト』の世界を思い出して背筋が凍りついた。

もちろん、感染症の爆発的流行は鈴鹿病院でも大問題だ。急性期病院で

も感染症専門病院でもないにしろ、寝たきりで身動きのできない患者さんや職員に蔓延したら悲惨なことになる。久留院長、南山副院長を先頭に病院中がコロナ対策に大奮となった。高橋感染対策ナースも、マスクに手洗い、三密回避の徹底と、感染防護にフル回転し、文字通り転がり回っていた。が、大変ダア〜の合唱だけでは、齢古希を過ぎた僕の脳みそがついていかない、牧江臨床研究部長に頼んで医学的にレクチャーしてもらい、COVID-19ウィルスの性質や細胞内への侵入過程や免疫応答などのある程度理解することができた。

僕は現役を過ぎた名誉院長なので防疫の第一線では却って邪魔だ。外来患者さんに啓蒙しながら、自分なりにCOVID-19や過去のパンデミックを調べ、以前の書き物の再整理を思い立った。第一次世界大戦中のスペイン風邪、中世ヨーロッパの黒死病やマラリア、新大陸そして日本でも猖獗を極めた天然痘(痘瘡)などなど、それらを克服してきた人類の戦いなどである。パンデミック報道の嵐に煽られるかのように頭がフル回転し、キーボード打ち始めた。それらの疫病の凄まじさに思いをいたし、よくぞご先祖さまたちは生き延びてくださったと感謝したものだ。3月上旬には懇意の女性編集者に梗概を送り、すぐさまGoサインが戻ってきた。書き上がる尻から五月雨式にメールで送稿し、折り返し彼女から疑問点や修正点をビシ・バ

シと言ってくる。もちろん、毎度の如く家人は「なにこれ、誤字脱字だらけじゃない。私がいないと、なあんにもできないんだから!」と呟きながら原稿をチェックする。僕はさらに改稿する。編集者も在宅のテレワークで本作りに集中し、4月中旬には校正刷が届いた。

ゲラを読みながらふと見回すと、諸外国に比べて日本での人口あたりの死亡率は桁外れに小さい。疾病コントロールがうまくいっているのだろうか?医療を含む社会的要因か?清潔好きな国民性か?あるいは日本人という集団に潜んでいる何らかの医学・生物学的要因か?いずれ、学問的に検討されていくだろうと、後書きに書き加え、5月の連休明けには出版した。

時は流れ、秋にはRNAワクチンが開発され、翌年早々から全国民への組織的な接種が繰り返され、僕も僅かながらもお手伝いした。ウィルス変異



感染対策で、病院玄関に設置されたサーマルカメラと、感染対策看護師。

も起こり、弱毒化していった。

ある日、僕の微熱を察知した高橋ナースにむんずと掴まり、鼻の奥に綿棒を突っ込まれ、あえなくコロナ感染の託宣が下された。幸い、流行当初のように強制隔離はされず、1週間の閉門蟄居(自宅療養)ですんだ。そして、2023年5月にはコロナ終息宣言が出され、人々の話題にもなくなった。このようにして、僕はコロナ禍を過ごしたが、思いがけずネアンデルタール人に行き当たった。

本の後書きに答えるような研究はされていた。過去のパンデミックでも亡くなった人もいれば生き延びた人もいて、医学・生物学的(人類学的)な理由があるようだ。地中海沿岸やアフリカには遺伝性の貧血症が多いが、本来は健康に良くない筈の遺伝素因があるとマラリアには罹りにくいという。また、血液型も免疫や感染症への抵抗性が指摘されている。中南米の先住民の血液型はほとんどがO型であり、この人たちは、ご先祖さま集団がアジア大陸からやってくる過程で襲われた感染症を生き延びた少数の子孫なのだという。COVID-19でも何らかの人類学的な現象があるかもしれないのだ。

2025年5月までのWHOの統計を元に計算すると、イタリアを含めた欧米諸国の累積死者は人口千人あたり2~3.5人ある。ヨーロッパでもバルカン半島や東欧は4~6人と多く、一方で日本や韓国、ベトナムなどの東アジアは0.7~0.5人で各段に低い。極め付けはサハラ以南のアフリカ諸国で、南アフリカ以外は0.1人以下だ。何故だか中国も0.08人である。統計の信頼性の問題はあるにしろ、COVID-19死亡率の地域差、人種差は存在しているようだ。

最近の発展が著しいDNA研究では、COVID-19での重症化は第3染色体や第9染色体の特定の部位が関係していることが分かってきた。第3染色体の

短腕領域は癌関連や、感染に対して免疫反応を起こし、過剰になると重症化させる遺伝子座がありネアンデルタール人由来であることを、古人類のDNA解析でノーベル賞を受賞したペーボ博士らが明らかにした。また、逆に重症化を抑える遺伝子座が第12染色体にあり、これもネアンデルタール人由来だという。ペーボ博士によると、何万年も前の大昔にネアンデルタール人たちの間にコロナなどの致死性のウィルス感染症が大流行した名残である。このような研究論文を読むとワクワクしてしまい、知識欲が強かった学生時代に戻ったようだった。

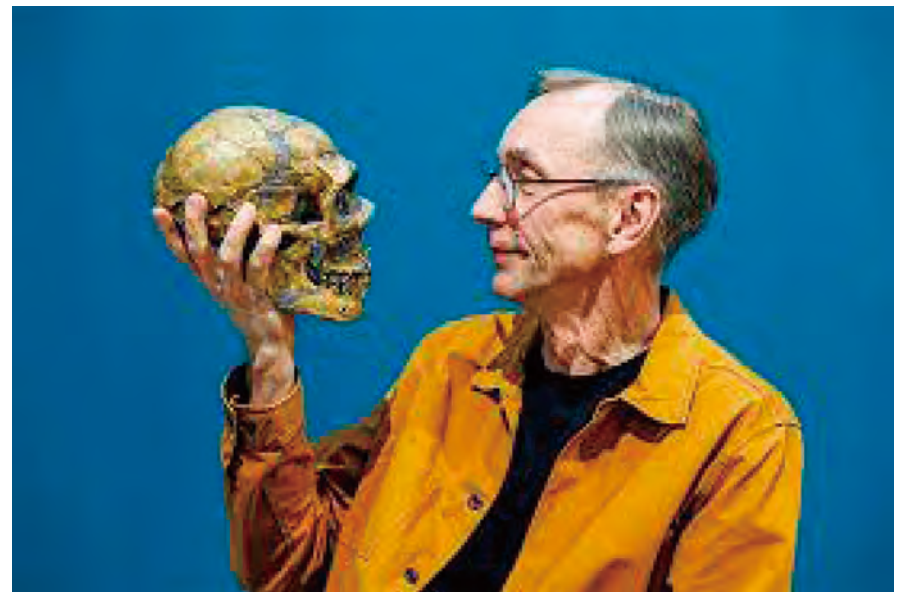
現生人のホモ・サピエンスはアフリカで原人から進化した、一部のグループがそこから出てユーラシア大陸に渡り、中東から東欧辺りでネアンデルタール人と交雑した。サピエンス集団の中に入り込んだネアンデルタール人の遺伝子は、ユーラシアのみならず南北アメリカや太平洋の諸島、オーストラリアへと世界中に広がった。ヨーロッパ人は約4%と比較的多く第3染色体の遺伝子変異を受け継ぎ、南アジア人は30%前後で大量だが、日本人など東アジアでは1%くらいと少ない。そして、アフリカの人たちにはほぼない。これはCOVID-19の

死亡率の地域差と合うように思える。流行当初のイギリスでは、南アジアのバングラディッシュ出身者の死亡率は他の地域の倍だったという。

もちろん、COVID-19の重症化因子や感染抵抗性にはもっとさまざまな免疫学的や代謝などの遺伝素因が関わっていて、単純ではないはずだ。そのうち、僕の高希過ぎ脳をもっと刺激してくれるような面白いことが分かってくるかもしれない。



『世界史を変えたパンデミック』(幻冬社新書)。



ネアンデルタール人とペーボ博士。

■ 外来診察担当表 (2026年6月1日現在)

	月	火	水	木	金
脳 神 経 内 科	南 山	平 野	久 留	小 長 谷	久 留
	野 田	酒 井		木 村	
内 科	野 口	田 中 滋		落 合	
小 児 科		予 約 (村田)			予 約 (村田)
整 形 外 科		田 中 信			田 中 信
		(装具外来)			
リハビリテーション科	野田(午前)	田 中 信	橋 本	田 中 信	田 中 信
	橋本(午後)				
皮 膚 科			室 (午 前)		
歯 科	北 村(午前)	大 岩(午後)		永 田(午後)	
禁 煙 外 来	野口(予約)			落合(予約)	

- 外来受付は8:30~11:00、診療開始は9:00~です。
- 歯科は身体障害者の方に限ります。
- 装具外来は火曜日の午後1:30から整形外科で受付いたします (あらかじめ電話予約のうえお越してください)。
- 小児科外来は担当医とご相談のうえ、ご予約ください。
- スギ花粉症でお悩みの方を対象に舌下免疫療法を実施しています。(月曜日)
- 土曜日、日曜日、祝祭日は休診です。

■ 交通案内

- JR「加佐登」駅より徒歩15分
- 東名阪「鈴鹿」I.C.より車15分
- 近鉄「平田町」駅よりタクシー15分
- 鈴鹿市西部地域コミュニティバス
椿・平田線「26加佐登神社」下車すぐ

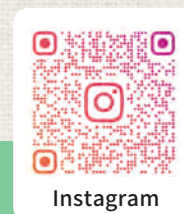


編集後記

鈴鹿の風の作成に加え、Instagramでの投稿も模索中です。
鈴鹿病院の魅力をより身近に感じていただけるよう発信していきたいと思っています。
ぜひ、Instagramをフォローしていただき、次の投稿を楽しみにしていただけると嬉しいです。



ホームページ



Instagram

独立行政法人国立病院機構 鈴鹿病院

〒513-8501 三重県鈴鹿市加佐登3丁目2番1号 Tel 059-378-1321(代) Fax 059-378-7083 <https://suzuka.hosp.go.jp>

令和8年6月発行